

中島暢太郎教授の御退官によせて

中島暢太郎先生には昭和61年3月31日をもって京都大学を停年退官されました。先生は防災研究所において昭和41年4月より20年間にわたって災害気候学に関する研究と教育に従事され、また研究所および大学の管理・運営に尽してこられ、学問の進歩、後輩の指導ならびに研究所の発展に多大の貢献をされました。

このたびの御退官によって先生をお送りすることはまことに残念で惜別の念に堪えません。

先生は昭和21年9月に京都帝国大学理学部地球物理学科を御卒業ののち、直ちに同学部副手となられ、昭和22年5月には同学部助手、昭和27年10月には同講師となられ、地球物理学教室において気象学の研究と教育に専念されました。

その後昭和33年から気象庁に勤務され、大阪管区気象台で技術部予報官として天気予報の実務に従事されましたが、昭和37年3月には京都大学より「上層気圧配置からみた西日本の天気型」という論文で理学博士の学位を取得されました。

先生は昭和41年4月には教授として再び京都大学に帰られ、防災研究所において災害気候部門の主任教授として研究面で立派な業績を上げられるとともに、教育面では多くの後輩の育成に当たられました。先生の研究面での御業績のかずかずは、本篇のなかに御退官記念講演内容としてまとめられていますのでその御紹介は省略させていただきますが、先生のユニークな御発想と卓越したリーダーシップが研究所の御仕事のなかで十分に発揮されてきたことは、所員一同の敬服するところであります。

先生はまた昭和52年5月から54年4月まで2年間にわたって防災研究所長として所内の管理・運営に努められ、新しい部門の増設や施設の充実を通して研究所の発展に多大の貢献をされました。先生は日頃から、研究は災害気候の分野に限られるが、教授としては理学系、工学系の出身にこだわることなく、災害科学全体の進歩に尽したいと念願しておられましたが、そのお考えはそのまま先生の行動によく表現されていたと思います。なお所長在任期間中は京都大学評議員として、全学に関する管理・運営の職務を分担され、大学紛争の余波の続いている困難な時期に学内の自治を守りながら、改革を進めてゆく過程で大へんな御尽力をいただきました。

先生の誠実、温厚でとくに他人に対して心を開いて接しられる御性格は単に研究所内、京都大学内のみでなく、広く所外、学外の多くの方々の信望を寄せられるところであり、日本気象学会、日本雪氷学会、自然災害科学学会など多くの学会の役員に選ばれてその責務を果され、また気象庁気象審議会、国立極地研究所専門委員会、京都府・京都市公害対策審議会など多くの委員を委嘱され、専門分野を通じて社会的な活躍を続けられました。

とくに先生は三高時代に山岳部に入って登山技術を習得されるとともに、「山の仲間」との親交を通じてグループとしての仕事をまとめてゆく特技を身につけられていました。先生は防災研究所に就任されてからは再びその仲間との交流を深められ、12年間にわたって京都大学山岳部長として多くの登山隊の壮挙を成功に導かれ、またその御経験を海外学術調査の実行の場に生かされて、ネパール・ヒマラヤや南米パタゴニアにおける氷河の学術調査で学際的また国際的な見事なチームワークによって立派な成果を上げられました。

このように深い学識と広い視野をもって独創的な分野を切り開いて活動を続けられてきた先生を防災研究所からいまいお送りすることは、まことに残念のきわみです。

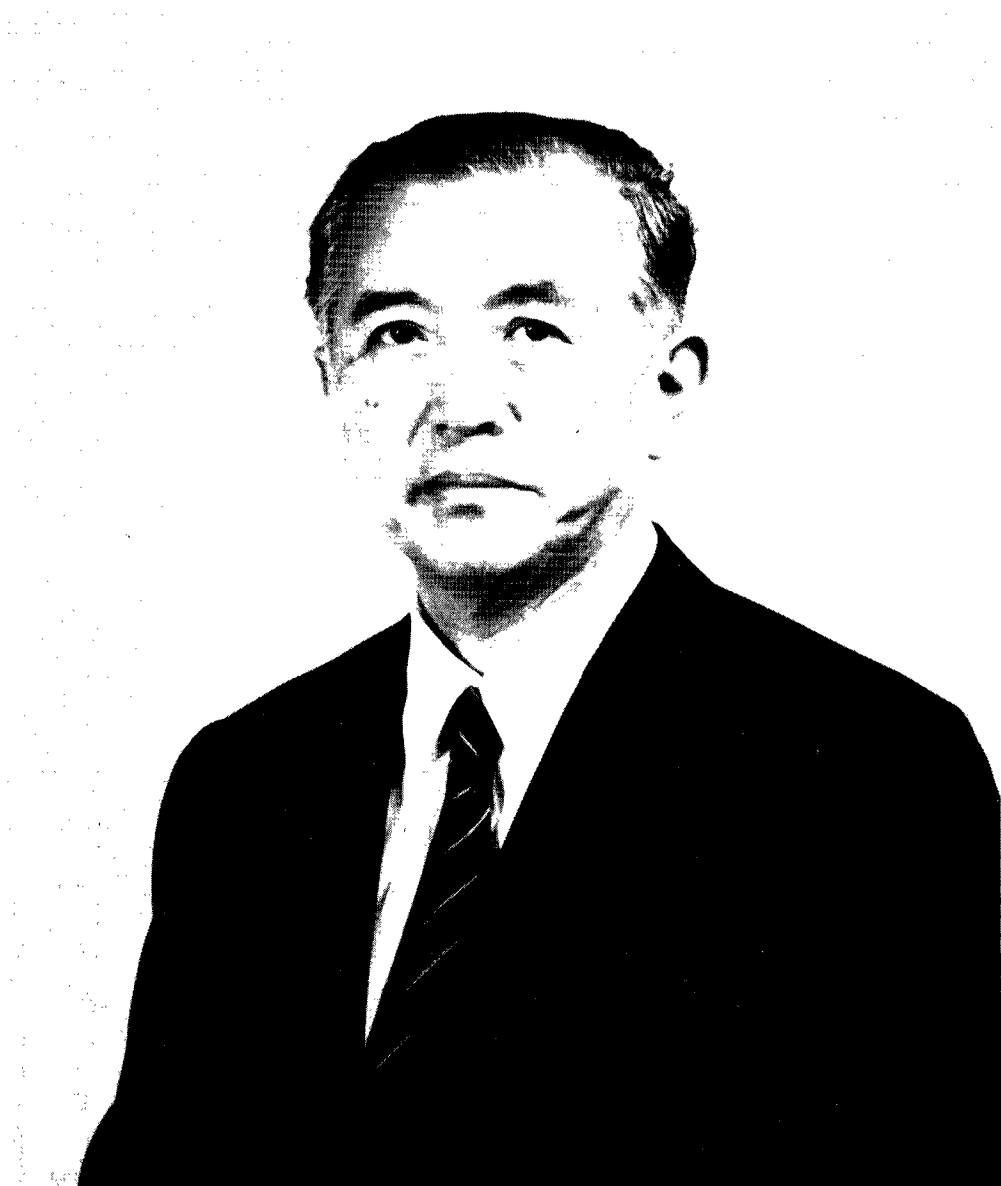
しかしながら先生はいまなお心身ともに活力にみちておられ、また本年4月より京都大学名誉教授の称号を授与されまして、本学との御縁も今後なお変わらず深いものがありますので、従来にましてもっと自由な立場で、われわれに対して御助言、御指導をいただけるものと期待しております。

最後に、先生がいついつまでも御健勝で、御多幸でお過ごしになりますよう心からお祈り申し上げます。

昭和61年4月

京都大学防災研究所長

奥田節夫



中 島 暢 太 郎 教 授

中 島 暢 太 郎 教 授 略 歴

大正11年4月28日 東京市に生まれる

昭和18年9月 第三高等学校理科乙類卒業

21年9月 京都帝国大学理学部地球物理学科卒業

21年9月 京都大学理学部副手（地球物理学教室）

22年5月 京都大学理学部助手（ “ ）

27年10月 京都大学理学部講師（ “ ）

33年4月 気象庁（大阪管区气象台，技術部予報官）

37年3月 理学博士学位取得（京都大学）

41年4月 京都大学防災研究所教授（災害気候部門）

52年5月 京都大学防災研究所長，京都大学評議員（昭和54年4月まで）

61年3月 京都大学停年退官

61年4月 京都大学名誉教授

中島暢太郎 研究業績

論 文

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1961	夏季の西暖東冷型の天気 四国沖の Frontgenesis の解析例	天気, 第8巻, 第8号 海と空, 第37巻, 第4号	
1962	ジェット気流の型と西日本の天気 最近来襲した主要台風の進路と上層気圧配置 夏季における大雨について 春の西日本の天気と上層天気図型	研究時報, 第14巻, 第12号 海と空, 第38巻, 第1号 天気, 第9巻, 第11号 海と空, 第38巻, 第3号	
1963	A Note on the Application of the Coordinates System of the Quasilagrangian Type	Geophysical Papers Dedicated to Professor Kenzo Sassa	
1965	西日本(近畿・中国・四国)の降雨, 第1章 序説, 第3章 降雨の基礎理論と予報技術	気象研究ノート, 第16巻, 第1号	
1966	大気汚染から見た京阪神地方の局地気候 Analysis of a Well Developed Cold Vortex over the South-Western Part of Japan	京都大学防災研究所年報, 第10号 B Special Contributions, Geophysical Institute, Kyoto Univ., No. 6	
1968	昭和42年7月豪雨の特性について プレモンスーン期における東部ヒマラヤの氷河上の気象観測について 予報官の立場から見た土佐沖低気圧 On the Heavy Rainfall in the Kinki District (Western Japan)	京都大学防災研究所年報, 第11号 B 京都大学防災研究所年報, 第11号 B 天気, 第15巻, 第9号 Bull. Disas. Prev. Res. Inst. Kyoto Univ., Vol. 17	後町幸雄 樋口明生 後町幸雄
1969	豪雨の研究(Ⅰ) 雷雲の生長と発雷の分布	京都大学防災研究所年報, 第12号 B 西穂高岳落雷遭難事故調査報告書	後町幸雄・荻本 洋
1970	豪雨の研究(Ⅱ) 南米南部の気候変動について Forecasting of Atmospheric Stagnation in the Kyoto Basin	京都大学防災研究所年報, 第13号 B 気象研究ノート, 第105号 Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 19	後町幸雄 佐藤和秀
1971	鈴鹿山脈周辺の降雨について 土石流の総合的観測 On Air-Sea Interaction in the Kii Channel	京都大学防災研究所年報, 第14号 B 京都大学防災研究所年報, 第14号 B Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 20	後町幸雄 土石流研究グループ 吉岡 洋
1972	豪雨の研究(Ⅲ)一豪雨時の10分間雨量の解析一 瀬戸内海の気象 広域場における大気汚染物質の換気能力について Heavy Rainfall around the Suzuka Mountains	京都大学防災研究所年報, 第15号 B 海洋科学, 第4巻, 第4号 近畿地方大気汚染連絡会誌, 第6号 Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 21	後町幸雄・枝川尚資 多河英雄・高橋政和 後町幸雄
1973	種々のスケールの気象現象と水災害 日本海沿岸における冬期波浪の観測資料集(1) 東南アジアの気候の特性について(1)ーフィリピンの大雨ー Heavy Rainfalls and Disasters	京都大学防災研究所年報, 第16号 A 京都大学防災研究所年報, 第16号 B 東南アジア研究, 第11巻, 第1号 Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 22	後町幸雄 波浪観測グループ
1974	渇水の気候学的研究	京都大学防災研究所年報, 第17号 B	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
	メソ気象現象の解析例—主として降雨解析から—	気象研究ノート, 第120号	
	流動する汚染気塊への光化学反応式の適用—京阪地方の広域汚染解析—	天気, 第21巻, 第10号	池田有光・梅木雅幸
	Distribution of Firn Temperatures in Mizuho Plateau and West Enderby Land, East Antarctica	Antarctic Record, No. 48	佐藤和秀・渡辺興亜
1975	東南アジアの気候の特性について(2)—ラオス・タイ・マレーシア・シンガポールの大雨—	東南アジア研究, 第13巻, 第2号	
	ひうち灘の海面における熱収支	京都大学防災研究所年報, 第18号 B	田中正昭
1976	東南アジアの降水量の変動について	天気, 第22巻, 第8号	
	豪雨の規模と平均雨量および集中度について	自然災害資料解析, 第3巻	石原安雄・後町幸雄
	ヒマラヤ周辺の気象について	京都大学防災研究所年報, 第19号 A	井上治郎・安成哲三
	南アジアの気候変動	天気, 第23巻, 第8号	
	宇治川水理実験所気象観測用鉄塔による観測と解析 (I)	京都大学防災研究所年報, 第19号 B2	田中正昭
	Movement and Development of the Clouds over Khumbu Himal in Winter	Seppyo, Vol. 38, Special Issue	
	Synoptic Analysis of the Precipitation over Nepal in 1974	Seppyo, Vol. 38, Special Issue	M. L. Shrestha M. B. Basnyat
1977	琵琶湖周辺の気象 (I)	京都大学防災研究所年報, 第20号 B2	後町幸雄・井上治郎
	宇治川水理実験所気象観測鉄塔による観測と解析(2)—風と気温鉛直分布の季節変化と日変化—	京都大学防災研究所年報, 第20号 B2	田中正昭・多河英雄
	ヒマラヤの氷河と気候—ネパール・ヒマラヤ氷河学術調査—	天気, 第24巻, 第5号	樋口敬二
	紀伊水道の OCEANIC FRONT の変動—フエリーボートによる長期間の水温観測から—	京都大学防災研究所年報, 第20号 B2	吉岡 洋・国司秀明
1978	福山・笠岡周辺の夏の海陸風について	京都大学防災研究所年報, 第21号 B2	田中正昭
	On Climatic Change in South Asia	Climatic Change and Food Production, University of Tokyo Press	
	Air-Borne Measurement of the Temperature Field over the Nepal Himalayas—A preliminary Observation—	Seppyo, Vol. 40, Special Issue	安成哲三
1979	近畿北部における山地積雪の研究	雪氷, 第41巻, 第2号	井上治郎
	局地異常気象観測解析装置について	京都大学防災研究所年報, 第22号 B2	光田 寧・田中正昭 中村 武
	琵琶湖周辺の気象 (2) —琵琶湖北部の湖陸風—	京都大学防災研究所年報, 第22号 B2	枝川尚資
	On the Meridional Circulation over the East Antarctic Coast during the Winter of 1976	Antarctic Record, No. 67	井上治郎
1980	台風16号の気象学的調査	文部省科学研究費自然災害特別研究 突発災害研究成果 No. B-54-1	光田 寧・後町幸雄 田中正昭・文字信貴 藤井 健
	台風7916号について	京都大学防災研究所年報, 第23号 B2	光田 寧・後町幸雄 田中正昭・藤井 健 文字信貴

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1981	高知県・宮崎県のとつまきの資料解析	自然災害資料解析, 第7巻	光田 寧・文字信貴 山口信之・武田 武 枝川尚資
	琵琶湖周辺の気象(3) 一湖陸風の鉛直構造一	京都大学防災研究所年報, 第23号 B2	
	On the Fog in Kathmandu Valley	Seppyo, Vol. 41, Special Issue	
	琵琶湖流域の降水特性	水資源研究センター研究報告, 第 1号	後町幸雄
	昭和55・56豪雪災害の気象学的特徴	文部省科学研究費自然災害特別研 究報告 No. B-55-4	中峠哲朗 菊地直次郎
1982	琵琶湖流域における湖陸風の研究	地理学評論, 第54巻, 第10号	枝川尚資
	Comparison of the Seasonal Meteorological Variations between Mizuho and Syowa Stations, Antarctica in 1977	Memoirs of National Institute of Polar Research, Special Issue, No. 19	井上治郎・藤井理行
	Snow Damage in the Warmer Regions of Japan	Jour. Natural Disaster Science, Vol. 3, No. 1	
	世界の異常気候と食糧生産に関する研究	文部省科学研究費自然災害特別研 究報告	他9名
	大雨について 一1981年11月2日の低気圧 の解析一	京都大学防災研究所年報, 第25号 B2	
1983	琵琶湖流域の降・積雪観測について	水資源研究センター研究報告, 第 3号	井上治郎
	ヒマラヤの天気予報	日本山岳会「山岳」, 第78号	
	鴨川水害史(1)	京都大学防災研究所年報, 第26号 B2	
	昭和57年7月豪雨について	京都大学防災研究所年報, 第26号 B2	後町幸雄 元田雄四郎
	南米南部の気象について	京都大学防災研究所年報, 第27号 B2	近藤裕史
1984	昭和58年7月豪雨の気象特性	京都大学防災研究所年報, 第28号 B2	後町幸雄
	琵琶湖流域北部山地の降・積雪特性	京都大学防災研究所年報, 第28号 B2	井上治郎・近藤裕史 枝川尚資・田中正昭
	Heavy Rainfall in Japan(1)	Proc. ROC-JAPAN Joint Seminar on Multiple Hazards Mitigation, National Taiwan Univ.	
	Glaciological Studies in Patagonia Northern Icefield 1983-1984	Data Center for Glacier Research Japanese Society of Snow and Ice	他11名

著 書

出 版 年	書 名	出 版 社	共 著 者
昭和46 50 61	水災害の科学 大気汚染 気象と災害	技 報 堂 コ ロ ナ 社 新 潮 社	矢野勝正 編 近藤次郎 編

随 筆

発表年	題 目	発 表 誌 名
1969	気候災害 アメリカ大陸最南端の一人旅 チリーの海	天気, 第16巻, 第12号 たいふうん, 第61号 海と気象, No. 4
1970	南十字星の下で新年を	北海道の気象
1971	異常気象 (空間と環境)	勁草書房
1974	雪と気候変動 気象と災害 (防災—自然災害と防止対策の展望)	克雪, No. 3 土木学会関西支部昭和49年度講習会テキスト
1975	ネパールの人と自然 東アジアの気象災害 ヒマラヤ散歩	青淵, 第321号 今西錦司記念論文集 (中央公論社) たいふうん, No. 79
	外国の気象観測所めぐり	天気, 第22巻, 第6—10号, 第23巻, 第1—2号
1978	雪害総論	克雪, 第6巻, 第2・3号
1979	気象と災害 —その歴史の変遷と地域差— 自然災害を防ぐ 記念講演	日本気象学会関西支部・日本農業気象学会近畿支部例会講演要旨集 HITAC ユーザ・81-8, No. 205
1983	気象災害に備える 平安京と洪水 気象が歴史の流れを変える時	予防時報, 第132号 (日本損害保険協会) 科学サロン, Vol. 7, No. 3, (東海大学出版会) 三高同窓会誌
1984	異常気象の傷跡を残す温暖水河 気象災害を防ぐ —30年の歩み—	UTAN, 6月号 (学研) 天気, 第31巻, 第8号
1985	防災研究所における海外水河調査 滑川教授と大谷東平台長	京大広報, No. 289 大谷東平伝